

平成29年度 第5回公社等経営評価委員会 議事要旨

1 日 時 平成29年11月30日（木）9：30～11：50

2 場 所 兵庫県庁2号館2階参与員室

3 出席者

- (1) 委 員 佐竹委員長、中尾委員、中西委員、前田委員、茂木立委員、吉田委員
- (2) 兵庫県 財政課長、資金財産室長、人事課長、新行政課長

4 議事要旨

(1) (公財) 兵庫県青少年本部ヒアリング

公社及び県関係課から、インターネットの有害情報対策や出会いサポートセンターの運営について説明後、委員との質疑応答を実施。委員からの主な意見は次のとおり。

※「→」は公社及び県関係課による回答を指す

① インターネット上の有害情報対策について

- 様々な対策に取り組んでいるが、その効果として、県内青少年のネットトラブルの減少数など数量的に示せるものはあるのか。各事業を実施する前提として、実態の把握や課題の整理を行うことが重要ではないか。
 - スマホの急速な普及等に伴い、それに派生する様々なトラブルが生じているが、その状況を完全に把握するのは難しい。現状、青少年のインターネットの利用実態を十分把握できていないので、アンケート調査やスマホワークショップを通して実態を把握し、ルール作りを進めている。

② ひょうご出会いサポートセンターの運営について

- 成婚の成果について、どのように評価しているか。民間と比べて会費も安いので、成婚した会員にPRしてもらおう等、もっと広報すれば会員も増えるのではないか。
 - 全国で23県が同様の事業を実施する中、本県の成婚数は2位である。ビックデータの活用や専門職向けイベントを実施するほか、ホームページでの会員登録の仮予約を可能としたり、県民だよりひょうご等への掲載により親世代も含めて広報をしており、今後も県の信用力と地道な努力で成婚数を上げていきたい。
- 本来は若年層の未婚化や晩婚化を防ぐのが狙いかと思われるが、会員の年齢構成が高いように感じられる。若年層の取り込みは、どのような状況にあるのか。
 - 晩婚化の流れもあり、登録年齢は若干高めである。20代の会費値下げの効果が徐々にあらわれ、女性を中心に20代の登録が増えている。

- 東京センター開設の狙いや開設後、この一年間の成果は。
 - 少子化や社会減による人口減少が県全体の課題とされる中、関東近郊在住の独身男女の結婚を支援し、併設するカムバックひょうごセンターにおける県内への移住促進やカムバックひょうごハローワークにおける県内での就業紹介とあわせてワンストップで対応している。成果については、なかなか苦戦している状況ではあるが、徐々に若者や女性の登録者数も増加しており、今後も有効な広報の仕方等について検討していきたい。

(2) (公財) 計算科学振興財団ヒアリング

公社及び県関係課から、ポスト「京」稼働等を見据えた事業展開について説明後、委員との質疑応答を実施。委員からの主な意見は次のとおり。

※「→」は公社及び県関係課による回答を指す

① 「FOCUS スパコン」について

- ポスト「京」への移行に伴い、「FOCUS スパコン」についても、設備投資が必要になるのか。また、どの程度の費用が必要となるのか。
 - ポスト「京」の性能が「京」の100倍以上となるため、「京」へのステップアップを支援する「FOCUS スパコン」についても、設備投資により増強する必要がある。投入金額や時期等については、3月までに具体的なロードマップを作成する予定である。利用料収入からコストなどを除いた剰余金を投資に回して利用者に還元しているが、大幅な増強には国の支援が必要なため、国に要望を行っている。
- 「FOCUS スパコン」利用企業における「京」の活用状況は。
 - 「京」の利用企業のうち、約56%はかつて「FOCUS スパコン」の利用実績がある。「FOCUS スパコン」だけで十分に事足りる企業や、そこからさらに高度な性能を求めて「京」にステップアップする企業もある。企業によって様々で、どのようなニーズにも応えられるよう、幅広く利用できる環境を整えているところである。

② 産業集積による地域活性化について

- SPring-8 や SACL A のある播磨科学公園都市と同様、産業集積は意図しているのか。神戸医療産業都市とも連携して、地域活性化に繋がるような方策を検討してはどうか
 - 設立当初は、COE（研究拠点）という形で教育機関や研究機関等の集積を期待しており、大学や理研等の研究教育機関による知の集積は実現している。現在は、「シミュレーション・クラスター」として、神戸医療産業都市の一翼を担っており、立地のメリット等もPRしながら企業誘致にも貢献している。

(3) (公財) 兵庫県勤労福祉協会ヒアリング

公社及び県関係課から、ワーク・ライフ・バランスの取組みの充実について説明後、委員との質疑応答を実施。委員からの主な意見は次のとおり。

※「→」は公社及び県関係課による回答を指す

① ワーク・ライフ・バランスの取組みについて

- 大手企業と比べて、なかなか独自で取組むことができない中小企業に対しては、協会の取組みが非常に有効であるが、現状、育児休業や介護休業等の普及率はまだ低いのではないか。
 - 中小企業にとって最大の生産性向上は、離職率の低減にあり、しっかりとワーク・ライフ・バランスに取り組むことで、人材の確保に繋がると考える。小さな事業所であれば、社長の意識さえ変われば、社員全員が同じ方向に向かうので、意識改革をしてもらうためにも、普及啓発を大事にしていきたい。
- アクションプランのひな形の活用状況は。
 - 認定企業のほとんどはひな形を参考にアクションプランを策定しているが、宣言企業で取組みが進んでいない企業では、アクションプラン策定は、ハードルが高いため、ひな形のWEBでの公表に加え、冊子の形にして直接持参して、プラン作成のアドバイスを行っている。
- 中小企業への助成金のうち、育児・介護代替要員確保支援助成金について、助成件数が低減しているのはなぜか。介護代替要員に対する助成については、どのような状況にあるのか。
 - 制度上、復帰後6ヶ月を経過することが助成要件であるが、代替要員が途中退職したり、育児休業から復帰後、働くのを断念して退職するケースも増えており、対象外となる事例も多い。育児と異なり介護は復帰時期も見込めないことから、介護の助成実績は少なく、仕事と介護の両立について普及啓発が必要と考える。

(4) (公財) 兵庫県国際交流協会ヒアリング

公社及び県関係課から、外国人県民への支援や海外事務所の経済機能の強化について説明後、委員との質疑応答を実施。委員からの主な意見は次のとおり。

※「→」は公社及び県関係課による回答を指す

① 外国人県民への支援について

- 在留ベトナム人が増加する中、ベトナム語が話せる日本人は少ないが、国際交流のために日本人にもベトナム語を学ぶ機会を提供することも考える必要があるのではないか。
 - 日本人を対象とした語学教育は、民間に委ねている状況であるが、協会では、日本人を対象とした多文化共生セミナーの開催など、国際交流を進める取組みを実施している。

② 海外事務所の経済機能の強化について

- JETRO 等も海外事務所を設置しているが、県海外事務所との役割の違いは何か。
 - 展示会への出展など企業の海外展開への支援では、単独の県事務所の方が、県としてのサポートが非常に生きてくる。また、県内中小企業が相談する上で、JETRO など国の機関よりも垣根が低く連携しやすいという声を直接聞いている。
- 海外事務所の効果について、経済活動の点から具体的にどのように検証しているのか。
 - 企業の投資活動は慎重に検討されるものであり、海外事務所の支援を通じた県内企業の海外進出件数や県内への立地件数をもって単純に評価することは難しい。ただ、展示会への出展支援やビジネス・アテンド、販路開拓等の相談支援実績は、28 年度は 5 つの事務所で 243 件もあることから、投資の判断材料を得るための事前調査窓口として、海外事務所が必要とされているものと考えている。
- 海外事務所で 1 番重要なのは、プラットフォーム機能である。現地にあるだけで、その効果があるということを中心に、経済機能、文化交流はもちろん、兵庫県民が現地でトラブルがあった時に対応できるリスク管理を含めた、様々な機能の役割を果たしてもらいたい。

(5) (公財) 兵庫県体育協会ヒアリング

公社及び県関係課から、東京オリンピック・パラリンピックへの対応やワールドマスターズゲームズ 2021 関西への対応について説明後、委員との質疑応答を実施。委員からの主な意見は次のとおり。

※「→」は公社及び県関係課による回答を指す

① 2020 東京オリンピック・パラリンピックの海外チームの事前合宿招致について

- フランス柔道チームの招致が決定した要因は。
 - フランスで柔道の父と呼ばれている川石酒造之助が姫路出身であるということが一番大きく、姫路に対応可能なホテルがあることも要因である。
- 他には招致の働きかけを行っているのか。東京オリンピックが東京の一人勝ちにならないよう、地方への分散化や活性化を図る上でも頑張ってもらいたい。
 - 5カ国語のパンフレットやホームページにより情報発信するほか、関係課で構成する庁内横断的なプロジェクトチームを結成し、海外事務所の協力も得ながら、迅速に海外とのやり取りに対応できる体制をとり、働きかけを行っている。

② ワールドマスターズゲームズ 2021 関西への対応について

- オリンピックやワールドカップに比べて知名度が低い。兵庫県は宿泊施設も少ないので、宿舎と競技施設が連携するなど工夫して、他府県だけでなく兵庫県にも来てもらえるようにしなければいけない。
 - 大会の特色としては、一般の方も実際に競技に参加することが出来るということにある。知名度が低いのは課題であると認識しているので、これから様々な場で PR していくことが必要であると考えている。